

## 塾に対する幻想

最近では中学生になったからといって塾に行くという意識は薄れているように思います。絶対評価の影響もあるのですが、「勉強に困ったら塾に行く」ことを考える人が増えていると思います。そのこと自体は間違っているわけではないのですが、ここで気をつけなければならないことがあります。塾は確かに勉強を教えてくれるところですが、塾に通うだけで勉強ができるようになるわけではありません。保護者の方の中には、塾に入れたことで安心される方がいらっしゃると思いますが、それは大きな勘違いです。

たとえば「学校の授業がよくわからないから」という理由で集団型の手塾に行くケースの場合は、十分な成果が得られない可能性がかなり高いと思います。進学実績や名物講義を行う先生につられて、「その塾に入れば自分もそんな学校に行けるはず」とか「いい授業を受ければ自分ではできるようになる」とか思うのですが、過去の実績が自分の進学先を保証してくれるものでないことは明らかですし、「よい授業」を聞くだけで実力がつくことはまず無いといって良いでしょう。

授業がわからないという原因は、大きく分けて次の2つがあると思います。

まず、その授業のための最低限の準備（うちの塾でいえば前回までの復習）をせずにいきなり授業に臨んでいるケース。基本的に講義は積み重ねですから、それまでの知識や技能が習得できてこそ「新たな内容」を理解することができるのです。「英単語を覚えていない」人が「英作文ができない」と嘆くのは滑稽なことです。

もうひとつは、授業中の先生の話についていけないケース。これは本人の日本語の理解スピードが遅すぎるといって「能力」に起因する場合と、本人に理解しようとする「意志」がない場合がありますが、まずほとんどは後者です。まるでテレビを見るように「聞き流して」いるのではないのでしょうか。教養番組を見て、断片的な知識を得ることはできますが、系統だった体系を理解することは困難です。授業を受ける姿勢はテレビ番組を見る姿勢ではいけないのです。

ここで「授業がつまらないから」という批判もあるでしょう。確かにこの点に教え手の技量の差はあります。しかしだからといって授業の受け手が何の準備もしないで授業に臨むことを容認する理由にはあたらないでしょう。それにいわゆる「面白い授業」とは、先ほどのテレビ番組同様に、断片的な知識や楽しみを経験するだけの一時的な満足感を与える構成になっているため、「わかったつもり」になる危険性をはらんでいます。

結局、勉強とは自分自身が頭や手を動かして身につけていくものなのです。学校や塾で聞いた授業の内容を復習してこそよい結果を得られるのです。中間テストが終わって危機感を抱いている人もいますが、まずは自分自身の授業の受け方や勉強法を見つめ直してみましよう。

## 高森1学期中間テスト塾生平均点

学年	英語	数学	国語	理科	社会	5科合計
中1	99.3	89.0	80.0	79.0	74.7	422.0
中3	90.5	91.6	75.1	79.4	92.1	428.8

中2は人数が少ないため、表中からは除外しました。